

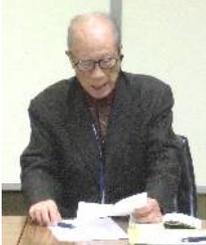


WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.64 December 10, 2017

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。



カズオ・イシグロ氏のノーベル賞受賞と 土屋政雄さん

JLC代表 宮本 倫好

その第一報には驚きました。ノーベル文学賞といえば、いつも村上春樹が英国の賭け屋の上位にきて、昨年も同様でした。それに比べ、カズオ・イシグロは注目を浴びていなかったのに、当日のテレビ画面に受賞が報じられ、その日本語版の表紙に、訳者・土屋政雄さんの名前がくっきり映ったのです。感動しました。土屋さんに心から祝意を表し、併せて我が会の誇りであることを申し上げたい。

版元の早川書房によると、受賞以来、8 作品で 115 万部が増刷されたそうですが、『忘れられた巨人』など 4 作は土屋さんの翻訳です。イシグロさんはルーツによる日本の記憶も混交する物語を、英語で紡ぐハイブリッドな作家という評価です。昔の職場の後輩で文芸担当・海老沢類記者は「いつかは受賞する人という評を聞いていて、来日の度にインタビューしたが、いつも誠実に答えてくれた。作品の背景やモチーフまで丁寧に説明してくれ、人称や暗喩といった表現上の工夫まで明かしてくれた」といっていました。土屋さんにも近い機会に、本会でここらを含めた翻訳に関するエピソードなどを披露してほしいですね。

翻訳の重要性でいつも引き合いに出され「この訳者がいなかったら川端康成のノーベル文学賞受賞はなかった」といわれるサイデンステッカー氏。『雪国』の冒頭の文「国境の長いトン

ネルを抜けると雪国であった」が、英訳では The train came out of the long tunnel into the snow country. となっています。「何がトンネルを抜けたのか」が、原文にはない the train を主語として挿入することによって、日本語のあいまいさが、欧米の読者には明快になっています。

土屋さんの場合、『日の名残り』（ブッカー賞受賞作）の後書きで、原作の文中に、作者が冬を夏と思い違えたに違いない個所を発見します。筆者に連絡すると非を認め、「summer を sunny に訂正してほしい」と要望される箇所があります。私は眼光紙背に徹する一流の翻訳家の姿を、このエピソードで感じ取りました。

筆者との出会いについては、土屋さんはこの後書きでユーモラスに書いていますが、詳しくはどうか皆さんご自身、同書をお読み下さい。土屋さんはこういう軽妙な文章から見て、優れたエッセイストでもあると思います。

文芸評論家で英語の翻訳者、文化勲章受賞者でもあった丸谷才一氏は『日の名残り』の解説で、「土屋政雄の翻訳は見事なもの」と絶賛しています。これには一読者としての私も、まったく異議がありません。今後とも、未熟な私たちをよろしくご指導下さい。

■この祝辞は、11月18日に開催された第64回研究発表会の予定プログラムに先立って述べられたものです。



答辞

驚きました 土屋 政雄

いやあ、驚きましたね。

じつは、ノーベル文学賞の受賞者が発表される日であることをすっかり忘れていたもので、女房が階下でなにやら喚きはじめたときは何事かと思い、「大声出すんじゃない」と叱るつもりで廊下へ出ました。すると、「イシグロがノーベル賞とった!」ということで……目を白黒させていると、耳元で電話がジャーンと鳴って、出ると新聞社でした。「お約束のコメントを……」と。

で、数日前にそんな電話があったことを思い出しました。「もしイシグロ氏が受賞したら、コメントをうかがいますので、家に待機してください」と頼まれていたんです。うっかり外出していなくてよかったです。思えば、去年もその新聞社からは同様の電話を受けていて、受賞はなく、コメントもなしだったにもかかわらず、家に待機してしてくれたことへの謝礼としていくらかもらっていたんです。

なんとかコメントをひねり出して約束を果たし、やれやれと受話器を置くと、途端にまた電話。今度は別の新聞社で、用件は同じ。それから新聞社やらテレビ局やらからひっきりなしに電話があつて、その晩はもうしゃべりっぱなしで、血圧は上がるし喉はかれるしで大変でした。こんなに電話があつたのは、女房に言わせると、何十年かまえ私が「タモリの笑っていいともに出たとき以来」だそうです。「いつもはオ

レオレ詐欺の電話と、オレオレ詐欺に注意しろって警察の電話だけなのにね」と笑っていました。

タモリのはきは、テレビで本の宣伝をしたいというのが動機で、朝早くからアルタの前に並び、「年齢あてコンテスト」のオーディションを受けました。55人から5人、11倍の狭き門でした。番組に出たあとすぐ、私が家に帰り着くまえから電話が大変だったそうです。夜になつてからも「見たぞ」とか「おまえ、あんな番組で何やってんだよ」とか、全国の友人知人から電話がありました。今回とあのときは、電話に関するかぎり、私の人生の2大イベントと言って間違いありません。あのときの出演料と今回の自宅待機料がぴったり同じとあつては、両者に優劣はつけられません。

ま、いろいろと大変ではありましたが、アンディ・ウォーホルの言う「15分間の栄誉」が体験できた面白い数日でした。今日は会長からお祝いの言葉などもいただき、身に余る光栄です。ありがとうございました。

劇的に変化しつつあるイギリス英語

表現を穏やかにするために使用される、quite, rather, fairlyなどの語の使用が急速に減少しつつある。

この研究結果を発表したのは、Lancaster UniversityのPaul Baker教授。「米国人は自分の意図するところをストレートに話したが、英国人は相手との対立を避けたい気持ちから、こうした語を多用する傾向にあった」。

日本では「逢いびき」として知られる名画Brief Encounter(1945年、原作Noël Coward)には、それが顕著に表れている。

だが、近年これらの表現の使用頻度は劇的に減少し、米国人風に単刀直入な表現を好む傾向に取って替わられて来た。(p.5へ)



第 64 回研究発表会

IT TAKES ALL KINDS TO MAKE A WORLD

岡田 茂富

今回の発表の題名は、**It takes all kinds to make a world.** ですが、この英語の慣用句にあたる日本語として、発表者は「十人十色」と言っておりましたが、これは間違っているのではないかと思います。筆者が思いますには、「世は様々」のほうがより正しいのではないかと、十人十色は百人百様、極端に言えば、蓼食う虫も好き好き、人それぞれやり方や意見が違うという意味であって、多種多様な人々がいることとは意味が違うということです。(ちなみに、十人十色に該当する英語は、**So many men, so many minds. or To each his own.**でしょうか) 筆者はここに発表者になりかわりお詫びして訂正いたします。

それでは、この題名のもとで発表者は何をしたかと言え、世界の様々な国の人々のジョークを集め皆様の前で発表しました。簡単に言えば、**ethnic jokes** ですね。

まず、比較的長めのジョークから始まります。

遭難する旅客船で船長が各国代表の男性諸君に海に飛び込むよう促す場面です。たとえばアメリカ人には、“**If you jump, you’ll be a hero!**” イギリス人には、“**At a time like this, a true gentleman would jump.**”日本人には、“**Every-one else has already jumped.**” 韓国人に対しては、“**The Japanese guy has already jumped.**” 関西出身の男性に対しては、“**The Hanshin Tigers won!!!**” なぜかって、宮本会長がいみじくもご指摘されたとおり、阪神タイガ

ーズが優勝して、いさぎよく道頓堀に飛び込んだ男たちがいましたね。このジョークの作者はすこし変わった性的好みがあると発表者は指摘しました。

To the Italian... “**See that beautiful woman with the luxuriant underarm hair swimming past?**” どうやら、ふさふさの腋毛の女性に魅力を感じるようですね。

次に、“**Excuse me, What is your opinion about the meat shortage?**”と訊ねる記者に対



して、The Saudi says, “**What’s a shortage?**” The Russian says, “**What’s meat?**” The North Korean says, “**What’s an opinion?**” The New Yorker, says, “**Excuse me?? What’s excuse me?**”

アメリカ人のジョークをさらにもう一つ。“**In Texas we grow potatoes 5 times larger than that!**”と自慢するアメリカ人に対して、スコットランドの農作物の栽培者は、“**Ah, but we just grow them for our own mouths!**”と答えます。

次に、お酒好きのアイランド人のジョークです。

Q: **What’s the difference between an Irish wedding, and an Irish funeral?**

A: **There's one less drunk.**

重ねてもう一つ、

O'Connell was staggering home with a small Paddy in his back pocket when he slipped and fell heavily. Struggling to his feet, he felt something wet running down his leg. "Please, God," he implored, "let it be blood!"

けちで有名なスコットランド人のジョークは、Scottish preacher



to his congregation: "I don't mind you putting buttons in the collection plate, but please provide your own buttons. Stop pulling them off the church cushions."

カナダ人の国民性は丁寧なことだと知りました。

Canadians are known for being polite. We are so polite that Canada is probably the only place in the world where people say "thank you" to ATM machines.

もう一つ。

Q: How do you get a

Canadian to apologize?

A: Step on their foot.



オーストラリア人のジョークもあります。

Why do birds fly upside down over Australia? It's not worth shitting on.

少しとんまなポーランド人のジョークといえば、

Q: Did you hear about the latest Polish invention?

A: It's a solar-powered flashlight.

次にウオッカ好きのロシア人のジョークです。

The Traffic police stops a car. Policeman asked the man, "Have you drunk vodka to-

day?"

Driver: No.

Policeman: Breathe into the tube... Well, no alcohol is detected... Maybe the tube is broken... (breathes into the tube himself)

No, it's working!

中国人のジョークです。

Chinese: "Me not come to work, me sick."

Boss: "When I'm sick I have sex with my wife, try it."

Later Chinese called back: "It worked. Me better. You got nice house!"

インド人のジョークは、

Sardar to his servant: Go and water the plants.

Servant: It's already raining!

Sardar: So what? Take an umbrella and go!

会場からご指摘がありましたように、インド人でも Sardar はインターネットを調べると、

A title of Persian origin used for military or political leaders.とあり、normally a person who wears a turban. Mostly all sikhs (religion from India) are sardars Because they all wear turbans and keep long beards and hair. Which is part of their religion Sikhism.とあります。

もう一つのインド人ジョークは、

Santa goes into a bar in New York. The man on his right orders a drink, 'Johnnie Walker, single.' The man on his left says, 'Jack Daniels, single.' Santa says, 'Santa Singh, married.'

ちなみに、Santa をイ

Knock Knock.
Who's there?
To.
To Who?
To *Whom*.

インターネットで調べると、Santa meaning: A Good Person とありました。

さて、最後に日本人のジョークを全文でどうぞ。

“Four men, a Frenchman, a Chinese man, an American, and a Japanese man, go into a restaurant and order soup. The Frenchman removes the fly, eats the soup, and then demands a full refund anyway. The Chinese man eats the soup, fly and all, and considers it “extra value”. The American whips out his cell phone and calls his lawyer so he can sue the restaurant. The Japanese man takes out his cell phone and calls his company to ask what he should do.”

(p.2 より)

この他にも、do not を don't と短縮形を用いる、the hand of the king の代わりに the king's hand などと、所有格を用いて簡略化する表現も好まれる。

教授は、「私たち英国人は米国人より慎重で遠慮がちだが、従来表現は回りくどい印象を与える。また、中流もしくは上流階級の人々が使用する表現と見なされ、これらの階級と関わりを持ちたくないという意識の影響があるのかもしれない」と語っている。

(The Telegraph の署名記事を Yahoo! JAPAN ニュース(11月19日)が抄訳して掲載。それを要約してご紹介しました。)

WE, JOKERS No.64

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

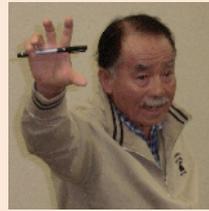
発行日：2017年12月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

連絡先：englishjokers@yahoo.co.jp

第38回ジョーク・コンテスト



MC の記

相原 悦夫

こんにちは。最近パツとしませんが、艶ネタ専科の相原です。

土屋さんオメデトウございます。当会の一員として大変誇りに思います。

さて今日は久々のMCですが、稀有な体験をしましたので少しお時間を頂きご紹介します。11月15日午前10時半過ぎ、テニスクラブで乱打をしていた処、大きなエンジン音が聞こえ見慣れない大型の飛行機が低空で南西方向へ着陸態勢に入ったかに見えました。良く見ると青い胴体からマスコミで報道されていたトランプ大統領の Air Force One が横田基地へ向かっていると直感しました。Air Force One といえば、クリントン前大統領の時代に米国で流行ったジョークをすぐに思い出しました。

ある小学校で英語の言葉についての授業をしていました。お題は「TRAGEDY」で、この言葉の意味する場面を挙げて下さいと先生が質問したら一人の生徒が手を挙げて、「私の友達が家の近くで遊んでいたら突然自動車が出てきてぶつかり怪我をしてしまいました。これは TRAGEDY ではないですか？」先生答えていわく「それは ACCIDENT といいます。他に誰か？」

次の生徒が手を挙げ「あるときスクールバスが崖から転落して多くの生徒が怪我をしたり死亡しました。これは TRAGEDY ではないですか？」先生答えて、「とても近いですが、それは GREAT LOSS と言います。」すると後列の生徒が答えて、

「あるとき Air Force One が飛んでいたら、な

ぜかミサイルがいきなり飛んできて打ち落とされてしまいました。これこそ TRAGEDY ではないですか？」

「えらい！！ その通りです！！ でもなぜそれが TRAGEDY だと思ったのですか？」生徒答えて「それは ACCIDENT でもなければ GREAT LOSS でもないからです！！」

それではジョーク・コンテストに入ります。恒例により 13 題のジョークを通読した後、解説なしで一回目の投票を行った処、5 番の小生と 13 番の植田さんの作品が 7 点で最高点でした。最終投票に移る前に、各作品の吟味がなされ投票の結果 13 番が 1 点差で第一位となりました。隣人が二人の彼女と浮気をしているのに彼の奥さんは気がつかないと妻に話した夫はそのうちの一人が自分の奥さんだったとは！！夫にバレた原因は奥さんの嫉妬でした！二位の小生の作品は艶物からは外れていますが“触らぬ神に祟りなし”のことわざ通り、女性との口論は避けるが勝ちの教訓で世界共通のようです。同じく二位の豊田さんの作品は精神病理学的には病状が改善していますが、本人はそうは思っていない落差がジョークとなっています。

長谷川さんの作品は英文法上とサンタチームの主従関係を掛けたり、佐川さんはシーザーとブルータスの格調高きお話でしたが、ジョーク性の点では点数を稼げなく残念でした。小池さんの学校の宿題の作品は、生徒の先生に対する正直な対応が図らずも両親の作文能力を露呈する結果になりました。安藤さんのキム・ジョン・ウンのジョークは、好きなだけ核実験をやったり家族を暗殺したりすればそのうち嫌になって非核主義になるのでは？との期待が裏切られました。

中島さんの彼女は思いやりのある聡明な女性のようにですが惜しくも得点伸びず、岡田さんの Always Right の嫁さんの変わりようは恐ろしいです。強力バッテリーも今回は不発。セックスチェンジの意味の取り違いが「なーんだ！」と

いう結末で常勝服部さんも今回不振。ひとつのカレンダーを何故か二人で盗んで、半年分ずつ使うのか、窃盗罪でそれぞれ 6 ヶ月の刑務所暮らしとなったのか議論が分かれましたが、後者の方が面白い？ 棚橋さん教えて！

今回はスクリーンが使えず PC 操作で折角の素晴らしい挿絵が見難かったことをお詫びします。今井さん、佐川さん有難うございました！！

JLC 第 65 回研究発表会/2018 年新年会 ご案内

会員各位のご参加をお待ちいたします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：2018 年 1 月 20 日 (土)
14:00~16:00
- 会場：銀座ライオン渋谷マークシティ店
(東京都渋谷区道玄坂 1-12-5 渋谷マークシティ 4 階) 電話：03-5428-3612
- プログラム
企画&総司会＝中嶋秀隆会員
① 乾杯と新年のご挨拶＝宮本倫好代表
② 2017 年年間功労者表彰式
(功労者には巨万の富が当たる可能性のある宝くじが贈られます)
司会＝安藤雅彦会員
③ 初笑いショート・スピーチ＝参加者全員
司会＝今井真由美会員
(必要に応じて、ハンドアウトをご準備ください。)
- 参加費：会員・非会員とも 2,500 円
(お手数ですが、お釣り銭がいらぬようにご用意をお願い致します。)
- 参加申込先：
englishjokers@yahoo.co.jp
- 緊急連絡先：佐川光徳会員携帯
090-9242-9614

参加申込締め切り：2018 年 1 月 13 日 (土)